

(振興局調整費)

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果及び住民の満足度	今後の課題及び取組方向
総務企画部	斉藤 英晴	地域企画課	地域振興班	伊藤 明大	0185-55-8004	地域振興局独自情報の地元新聞への掲載 平成23年5月26日～平成24年1月26日	振興局各部から県民への情報提供を図る。市町広報やHP以外に、振興局独自に確実に情報発信する機会が必要である。	464,652	直営	地元紙に、毎月第4木曜日に「振興局だより」のコーナーを設け、計9回、振興局各部からイベント開催、相談窓口PR、感染症予防対策、県道情報等を掲載した。	山本地域振興局	一般県民	平成23年4月11日 平成24年10月30日	紙面を見た住民から、イベント参加や掲載情報への問い合わせが寄せられるなど、この取組により一定の成果が確認された。	地域住民と振興局を結ぶ地域における有効な情報提供手段と判断されることから、今後も引き続き実施することが望ましいが、市町広報及び新聞社へのプレスリリース等、代替手法の更なる活用による掲載回数の縮減等も適宜検討する必要がある。
総務企画部	斉藤 英晴	地域企画課	しらかみ観光振興班	小瀧 智昭	0185-55-8006	あきた白神地域観光PR活動事業 平成23年7月1日～平成24年3月30日	震災の影響等需要が落ち込んでいることから、能代山本地域の魅力をもっと広くアピールするため、管内市町との協働事業として、首都圏のメディア等を訪問し、観光PR活動を実施。さらにメディア関係者を招聘し、現地取材を行い記事化してもらうことで、観光PRを図る。	791,390	直営	①メディア訪問6社 ・平成23年8月1日～2日、首都圏 ②メディア掲載実績2社 ・オートキャンパー10月号、5P掲載、平成23年7月20日～22日現地取材 ・月刊ガルヴィ1月号、7P掲載、平成23年10月24日～25日現地取材 ③ノベルティグッズ制作 ・クリアファイル2千部 ・手提げ袋500枚	山本地域振興局(管内各市町と協働実施)	首都圏メディア、一般	平成23年6月21日 平成24年10月30日	白神山地を核に食・体験等情報豊かな内容を現地取材・記事掲載していただき、全国的かつ効果的なPRができた。ノベルティグッズは、振興局の行事の他、各市町のイベント等に使用され、幅広く活用できた。	平成23年度事業は、管内市町との機能合体の試行事業として実施した。次年度はこの実績をもとに、各市町に負担金を求めながら連携して進めて行く。
農林部	高田 清晃	森づくり推進課	林業振興班	春日 進	0185-52-2181	世界最大級のブナの森「SIRAKAMI」PR事業 平成23年9月8日～平成24年3月30日	県内外の者に、世界最大級のブナの森に興味を持ってもらい、森林の大切さ、偉大さを理解してもらうため、既出版の冊子「白神山地フィールドガイド」を増版し、配布する。	567,000	直営	「白神山地フィールドガイド」の増版、配布(配布部数3,000部)	山本地域振興局	一般県民	平成23年9月8日 平成24年10月30日	配布を行った各種イベントでは、準備部数が瞬間になくなり、好評だった。広く県内外の方々に白神山地の大切さ・偉大さを理解してもらえたと思われる。	今後も、改訂版を発行するなどして白神山地を核とした体験型ツーリズム観光を促進する。
総務企画部	斉藤 英晴	地域企画課	地域振興班	伊藤 明大	0185-55-8004	県内避難者情報交換・交流会への県北部避難者送迎事業 平成24年2月5日	県避難者受入支援チームが秋田市で開催する「秋田県内避難者情報交換会」に、県北部避難者の交通手段の確保(能代市・秋田市の往復バスの借り上げ)を行う。開催が冬期でもあり県北部避難者からより多く参加してもらうため実施が必要である。	54,550	直営	平成24年2月5日に秋田市で開催された「秋田県内避難者情報交換会」に合わせ、往復バスを借り上げて参加者(3世帯7名)を送迎した。	山本地域振興局	県北部避難者	平成24年1月30日 平成24年10月30日	「秋田県内避難者情報交換・交流会」への県北部避難者の参加を促進し、情報交換会の目的である避難者と秋田県民との「絆」を育む一助となった。	当該実施により事業は終了した。
総務企画部	斉藤 英晴	地域企画課	地域振興班	伊藤 明大	0185-55-8004	能代山本地域避難者交流事業 平成24年3月17日	東日本大震災により秋田県内に避難してきた避難者の孤独、孤立化等を防止するため、避難者間の交流を図るとともに、避難者を支えようと活動しているボランティア団体と避難者の相互のネットワークを構築する必要がある。	99,890	直営	能代市働く婦人の家を会場に、郷土料理をメインとした料理教室及び交流会を開催した。避難者及びボランティア団体等40人(避難者7世帯22人、ボランティア12団体18人。行政10人を除く。)の出席があった。	山本地域振興局	県北部避難者及びボランティア団体	平成24年2月20日 平成24年10月30日	避難者相互の顔合わせ、意見交換並びに避難者を支えようとするボランティア団体と避難者の顔合わせ及び交流が図られ、避難者の孤立・孤独化防止の一助となるとともに、今後実施される各種交流事業への道筋につながる等、一定の成果があった。	当該実施により事業は終了した。 ※なお、避難者交流事業は、平成24年度に県総合政策課被災者受入支援室が事業として実施している。

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的, 必要性	事業費 (円)	委託・ 負担 金・ 直営	事業実施状況	事業実施 主体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務企画部	齊藤 英晴	地域企画課	しらかみ 観光振興班	小湊 智昭	0185-55- 8006	被災者支援白神 ツーリズム事業 平成23年6月13日 ～ 平成23年6月16日	震災の被災者を励まし、 世界自然遺産白神山地の 自然等を体験することに より、「生きる力・元 気」を充填してもらい、 復興に向けた活力を醸成 する。併せて地元観光関 連産業の活性化に資す る。	1,458,700	委託	○参加者29名 ○大船渡市避難所から貸切バス による送迎 ・じゅんさい摘取り体験 ・新緑の白神山地散策 ・郷土料理の提供、PR ○委託先：第一観光バス(株)	山本地域 振興局	大船渡市 避難所生 活者	平成23年4月27日 平成24年10月30日	避難所生活を余儀なくされてい る被災者の方に、当地域の自然 の素晴らしさや温泉、郷土料理 等を体験してもらうことで、心 身ともにリフレッシュし、復興 に向けた活力を少しでも与える ことができたと思う。	当該実施により事業は終了し た。